



▲三原図書館で絵本を読む林典子さんと祐太くん。図書館では子ども用ビデオも借りることもあります(5月9日)

図書館を活用する わたしの読書生活

あなたは最近、本を読んでいますか？小説や雑誌、絵本など、いろんな本に囲まれて生活していることでしょうか。多くの本は図書館でも借りることができます。図書館を利用する人ってどんな人？どんなサービスがあるの？図書館を利用する人たちの話を聞いて、あなたの読書生活を考えてみましょう。

(左写真)

図書館に週1回届く冊子「新刊全点案内」。冊子には出版社のおすすめ図書があり、これを参考に毎週図書を購入。年間9,000冊以上の図書を購入しています。

(右写真)

受付に来た利用者に希望の図書の案内を行います



図書館といえば、本を借りるところ。まさしくその通りですが、さまざまな使い方をしている人たちがいます。毎日同じ時間に欠かさず新聞を読みに行く人、待ち合わせに使う人、勉強にくる人、買い物ついでにちょっと立ち寄る人、中には用を足しにくる人もいます。また、時期によっては、中学生や高校生の勉強での利用も増えるんです。

さて、そんな誰にでも気軽に利用され、地域の人に愛されている図書館は、赤ちゃんからお年寄りまで実に多くの人に利用されています。図書館の蔵書は約23万冊。小説や絵本、料理、歴史雑誌、郷土資料など、さまざまな本を所蔵しています。館内には、企画コーナーもあります。ここでは大河ドラマや本屋大賞、絵本屋さん大賞で受賞した本が一目で分かるようにずらっと並んでいます。また、休みの日には、ボランティアグループや図書館職員が子どもたちに読み聞かせ教室を行っています。

図書館の使い方は一通りではありません。本は借りないけれど、じっくり時間をかけて新聞や雑誌を読む人。そんな人も立派な利用者です。まずは図書館に行ってみましょう。そこで、あなたが手にとった本、そこからさらに興味が湧いてくるかも……。静かゆつたりとした居心地のいい図書館、もっとも自分流にうまく利用してみたいかがでしょう。



▲館内の雑誌コーナー。最新号は貸出できませんが、バックナンバーは貸出しています

平成21年度の図書館利用状況

区分	利用者数	貸出冊数
緑図書室	6,786人	2万7,528冊
西淡図書室	2,885人	1万779冊
三原図書館	2万2,406人	9万4,622冊
南淡図書館	2万6,672人	9万6,046冊
合計	5万8,749人	22万8,975冊

図書館で本を読みたくないなあ。でも、どんな本がいいかな？



▲郷土資料等を保管する収蔵庫内を案内する釣島課長補佐。昭和60年以降の新聞も保管しています

ます。50件という、数か月待ちの状態……。途中でキャンセルする人も少なくないとのこと。本のリクエストはどのくらい聞いてもらえる？

さて、「こんな本を読みたい」という要望、本のリクエストも図書館では受け付けています。「リクエストは基本的ににほぼ応えている」といいます。また、絶版などで取り寄せが必要なきは、自治体の枠を越えて他の図書館から取り寄せることもあります。

私の図書館活用術
読書は私のかけがえのないもの。1日1冊の読書が習慣です。



▲本の楽しさを話す田中さん

南淡図書館で働く、市職員の釣島章 課長補佐は話します。「本を探している人は、意外と漠然としたイメージで探していることが多いです。そのため、利用者が求めるものを適切に把握し、効率的にたどりつけるようサポートするのが私たちの仕事です。少しでも役に立てるようにと、親身になって案内することを心がけています。」

利用者が情報・資料などを求めたとき、図書館職員がその資料を検索・提供、回答して支援する業務をレファレンスサービスといいます。図書館は、このサービスを提供することで、皆さんの心に残る一冊を探し出すお手伝いをしています。

多い人では年間どのくらい借りるの？人気図書の予約状況は？

多い人では年間300冊を借りることもあるといいます。仕事を退職した団塊の世代の利用も多いとか。

人気図書の予約は、これまで「ホームレス中学生」「Q84」「ハリーポッター」など、50件を超えることもあり

2週間に1度は図書館を訪れ、家族と10冊は借りていくという田中かほさん(志知)。「好みの本は江戸時代をテーマにした歴史物だそうです。年間500冊は本を読む田中さんは、「2週間無料で本を借りられる図書館は、本当に重宝している」と話します。また、新聞に掲載される新刊もチェックして、図書のリクエストも利用することもあるとのこと。読書は生活の一部、かけ

がえのないもので、寝るまでに1冊は読むのが習慣となつていきます。最近では、本の楽しさを知ってもらおうと、孫に読み聞かせをしているそうです。

介護の仕事の勉強や、子どもの本を借りるのに使っています。



▲図書館をよく利用する木下さん

木下恵里さん(八木)は、介護の本を取り話します。「仕事の勉強をしてみました。介護の本が充実しているのでもよく利用します。」中国出身の木下さんは、普段から敬語の勉強にと本をよく借りています。歴史のことももっと知りたいと笑顔を見せます。

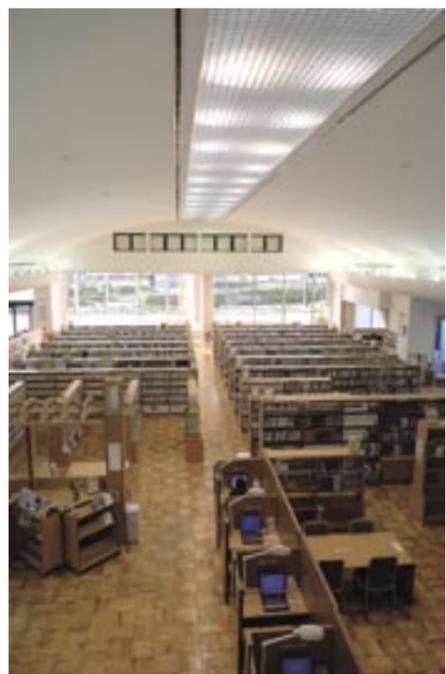
また、図書館に通い始めて、受付職員と顔見知りになった木下さんは、読みたい本がどこにあるかなど、助けてもらうことも多い。パソコンを利用したり、子どもの本を借りたりもよくするそうです。

子どもに本を与える機会も必要。本は想像力を膨らませる。

絵本や紙芝居の読み聞かせグループ「たんぽぽ」の松本英子さん(市)は、「子どもが本を好きになるには、まず本に触ってみることが大事。興味をもってもらうには、親が子どもに本を与える機会も必要です。また、本の魅力は想像力を膨らませる点にあります。本を読むことで、普段体験できないことを本の中で知るのには大きな魅力」といいます。



▲図書館のほか、小学校でも読み聞かせをする松本さん。道すがら「本のおばちゃん」と呼ばれることもあるそうです



まずは興味を持ったことからでも…。あなたの身近な図書館へ、気軽にお立ち寄りください。